

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

ポリオ根絶に向けたポリオウイルス・バイオリスク管理の推進を図るための研究

研究代表者 河合 康洋 国立感染症研究所安全実験管理研究センター 第一室長
研究分担者 吉見 逸郎 国立感染症研究所感染症危機管理研究センター 第一室長
研究協力者 清水 博之 国立感染症研究所 ウイルス第二部

研究要旨

目的：ポリオウイルス関連資材等の保有状況の把握について、先進国を中心とした諸外国での対応状況や体制について情報収集を行い、実験室封じ込めに関連し、我が国の対応に活かすことを目的とする。

方法：諸外国での状況について、公開資料調査のほか担当者に状況を伺う。

結果：諸外国での対応状況や体制について、英国、米国、について詳細を伺った。

考察：網羅的に調査、簡易的に調査、と方向性は異なるが、WHOの指針を踏まえた判断や工夫の様子が把握できた。保有施設の「分母」に苦慮する様子があった。

結論：ポリオウイルス関連資材等の扱いについては、WHOのガイダンス改訂やその他封じ込め施策について、WHO含め海外の状況等注視する。また国内での調査は、「分母」の設定のためにも、スクリーニング調査と詳細調査の2段階を検討する。

A. 研究目的

ポリオウイルス関連資材等の保有状況の把握について、先進国を中心とした諸外国での対応状況や体制について情報収集を行い、実験室封じ込めに関連し、我が国の対応に活かすことを目的とする。

B. 研究方法

ポリオウイルス関連資材等の保有状況の把握については、厚労省と相談、情報共有を行うとともに、調査様式の検討を行う。

諸外国での対応状況や体制についての情報収集については、インターネット等で公開情報を把握し、担当者に状況を伺う。

また、追加課題として、WHO 会議に出席し議論の様子や関係者のネットワークの状況を把握する。

C. 研究結果

ポリオウイルス関連資材等の保有状況の把握については、厚労省と相談のうえ情報共有を行い、調査様式の検討を行った。WHO ガイダンスに示されている事項とともに、その前段階で、施設のスクリーニングとなる簡易な調査様式の検討を行った。

また、諸外国での対応状況や体制についての情報収集については、今年度は、英国、米国について、それぞれインターネット等で公開情報を把握するとともに、担当者に状況を伺うことが出来た。

まず米国では、web フォームの回答様式を用意し、関係団体やホームページ等を通じて周知して実施しているが、これは累次の実施ではなく、新たにみつけた対象候補施設等に呼びかけるなどして新たに回答を集めているものであった。また、周知に際して新たな対象候補施設等が把握された場合、説明して理解を得て、調査し状況把握となるまで、

半年以上かかることもあるとのことであった。

英国では、諸国の実施状況を把握するとともに、専任の職員を置いて実施に向けて準備を進めていた。米国のような詳細な調査でなく、簡素な調査を検討しており、今後、パイロット実施を含め準備、実施する方向とのことであった。

また、追加課題として、WHO 会議に出席し状況を把握するとともに WHO の用いるシステムについて把握できたが、国内の実務にはあまり関係がなさそうなものであった。

D. 考察

ポリオウイルス関連資材等の保有状況の調査については、米では、ひろくばらまき形式で実施しており、調査内容も詳細にわたっている。また、新たな対象候補施設等が把握された場合には、時間や手間をかけて施設の理解や協力を得ている様子であった。

英も同様に実施していくと思われるが、専任の職員を置き、また、調査票のパイロット実施を行うなど体制を整えるとともに実施の準備を進めており、今後の動向が注目される。

引き続き海外の関係者との情報共有・交換は重要と考えられた。

なお、海外での事例から、保有状況に際して「分母」の把握が重要ということが挙げられ、こうした「分母」になりうる施設を把握できるとともに、WHO ガイダンスに示される詳細な調査につなげるための、いわばスクリーニング調査となるような、簡易な調査が有用と考えられた。

E. 結論

ポリオウイルス関連資材等の保有状況の調査、

に関する現状を公開情報と担当者からのヒアリングを中心に把握した。ポリオウイルス関連資材等の扱いについては、WHO のガイドンスの改訂も予定されているが、ほか封じ込め施策について、WHO の議論も含め、引き続き海外の状況等注視するとともに、スクリーニング調査と詳細調査の 2 段階を検討していく。

また、海外の関係者との情報共有・交換の機会、ポリオウイルス関連資材等の保有状況の調査について、特に体制や実施内容などが具体的にわかるとともに、その他にも、バイオセーフティ、バイオ

セキュリティ関連の状況についても話題が上げられるため、非常に重要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし